

# 北社会ニュース 第35号

2007年8月20日

発行者：鈴木壮夫

本日、第254回北社会は珍しい講師に御出でいただきました。女性ではお二人目ですが、外国人で大学生というのは本日のズラゲレルさんが初めてだと思います。皆さん、ご承知のように北社会は青山先輩の情熱によって1975年9月（昭和50年）に当時の安西浩東京ガス会長の「シベリア油田開発について」でその歴史の幕を開けました。32年間も続いております。その幕開けに「生を受けていなかった講師」も本日が初めてです。記録的な酷暑の日々が続いております。爽やかな大陸の風を今夕、体現していただければズラゲレルさんも準備した甲斐があったと思われるでしょう。



講師・ズラゲレルさんの略歴：

1984年2月13日、モンゴル国の北辺・ソ連との国境を接していたセレンゲ県に生れる。北緯50°、樺太・サハリンと同緯度。両親とも数学の先生で四人兄弟の末っ子。小学校入学時、首都ウランバートルに転居、第43番学校に8年間通学。日本語に興味をいだいたのは日本語の通訳として活躍していた兄嫁さんの影響という。その兄嫁さんから山形県・宮城県の篤志家の援助によって開校する、モンゴル国では初めての三年制の高校「新モンゴル高等学校」への進学を勧められた。入学試験の7日前だったが受験して合格した。「新モンゴル高校」の開校式と第一回の入学式は2000年10月5日。彼女は16才。新入生は105人。日本語担当教師は仙台市出身の佐藤綾さん（当時山形大学大学院教育学研究科の二年生）が大学を一年間休学してモンゴルに赴任した。ズラさんは翌年の夏、日本を三週間訪れ、仙台市にもホームステイした。高校在学中から日本への留学を志し、2003年6月卒業と同時に難関のモンゴル国立大学・日本語文化学科に挑戦し合格、大学生となる。大学一年生を終了、小学校入学以降12年間の学習期間を満了して海外大学への留学試験の権利を取得、即座に受験して合格した。彼女の留学資金の一部は千葉県松戸市のNGO「ACA-アクア」が負担している。「アクア」はマブチモーターの馬淵会長が設立した団体で「アジアの人々の自立支援」を目標にしている。2005年3月、東京国際大学入学のため来日、NGOと国際政治を主に学習している。ズラさんは今後の目標を次のように語ってくれた。知識をより確かなものにするため大学院へ進学、可能ならばモンゴル国と関係のあるNGOかNPOで働きたい。何故かという、将来モンゴルでNGOを立ち上げ「子供の権利を守るため、様々な問題を解決していく活動」が私の夢だからと。 ＊この健気さ、66才のハゲを奮い立たせてくれる＊

(1) 来月の北社会

9月21日（金）午後6時 会場は“豊島区生活産業プラザ・多目的ホール”

講師：石井彦寿氏（高12回）東北大学法科大学院教授

演題：「正義の女神の目隠し」

→金曜日の開催、而も会場も池袋駅周辺ですのでご注意ください←

(2) 母校を訪問、柏葉校長と面談： 【地味な女生徒に安心と連帯を覚える】

前月の北社会の翌々日の7月19日の午後母校を訪問した。校長先生が接客中だったので校内周辺を散歩。校門の左右の木々というより樹木が鬱蒼として小さな“林”になっていた。在校時代から50年が経つという時の重みを痛感しつつ、三ヵ月を経過した共学の学内雰囲気これからお聞きできるという期待感をもって歩いた。行き交う生徒達はきちんと挨拶してくれる。運動場では数日前初戦の黒川高に敗れた硬式野球部も元気に練習していた。一年生は前日の18日より20日まで恒例の栗駒山登山中で校長先生は一泊で帰校し、顔が日にやけて赤黒になっていた。約一時間半お聞きしたことを整理つかぬまま箇条書きにて報告します。

- (イ) 女子の入学者は71名。現在一クラスの定員は40名で8クラス。各クラスに8-9名の女子が在席、“あ・い・う・え・お・・・”の名字順に着席。
- (ロ) 男子も長髪が多く、女子もほとんど地味なスラックス姿なのでうしろ姿だけでは識別できない。特に女子が目立つようなことはない。
- (ハ) 一年生は武術が必修科目なので、従来通り三船先輩の“文武一道”を守り、女子も男子と一緒に柔道を履修している。
- (ニ) 昨年の入学説明会で共学になっても男子校の伝統は引き継ぐと懇切丁寧に話したので、女子も覚悟して入学してきた。昨日の栗駒山、女子の頑張りが目立った。
- (ホ) 試験の成績結果は女子が上位に固まっていることはなく、満遍無く散らばっている。でも、トップクラスの十数人では女子の比率は高いとのこと。
- (ヘ) 同窓会報は生徒全員にも配布する。西澤会長の巻頭言の米国大学事情については学年主任の先生が学年集会を開催、会長の主旨を伝え生徒達に配った。
- (ト) 二年生から理系・文系にクラス替えとなる。理系5・文系3クラスと世間でいわれる“理系離れ”ではない。
- (チ) 大学進学志望校は当たり前のことだが「本人の意志」で決めている。合格可能なのに東大ではなく東北大・京大等に進学する生徒も少なからずいる。
- (リ) 中学校までに共学は体験しているので、生徒達にも“慣れ”があり、ごくごく自然に学校生活を過ごしている。自主性もあり、期待を抱かせる生徒達だと。

話しも一段落して辞去しようと思った時、吹奏楽部の練習の音が聞こえてきた。柏葉校長が「そういえば、在校時代は吹奏楽部でしたね。明後日、予選大会があるので吹奏楽部の女子は栗駒山に行かないで練習している。行ってみますか」と言われご案内いただいた。各教室にパート別トランペット・トロンボーン・サクソフーンに集まって練習していた。各教室のドアを開けて校長先生が私を紹介してくれた。「君達の50年前の大先輩」と。私の在校時代、部員は20数人、それが今年は女子が11人入部して総勢51人。女子部員は校長のお話の通り地味な服装だった。各教室で数分間づつ、50年前の創部立ち上げのこととかを話した。5時から全体練習なので聞いて下さいといわれたが、時間の余裕なく断念。生徒からすれば、祖父の年令にちかいハゲが懐かしがってと思ったかもしれないが私はとても楽しかったし、安心もした。数日後、青葉区・泉区の予選大会の結果を電話で問い合わせたところ“銀賞”で決勝には進出できなかったとのことだった。校門を出るとき青葉山の天空にトンビが鳴いていた。本当に50年も経ったのかと！

末尾にこの一ヵ月に印象に残っている川柳を紹介します。

『へこたれぬ 安倍を見習え 朝潮龍』